

イグサ品種「筑後みどり」の高品質安定栽培法

[要約] 高品質イグサ生産のためイグサ品種「筑後みどり」の茎を細くするには、移植苗の1株当たり茎数を12～14本とし、3月～4月上旬の地干しを強くする。さらに、先刈りを5月上旬に、高さは現在の45cmの部位よりやや低い40cm程度ですると、着花部位は除去され着花茎が少なくなり、高品質イグサの収量が多い。

担当部署	筑後分場・い草研究室			連絡先	0944-32-1029
対象作目	いぐさ	専門項目	栽培	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

厳しいイ業情勢に対応するためには、高品質畳表の生産により中国産との差別化を図ることが重要である。本県ではイグサ品種「筑後みどり」を使った高級ブランド畳表“博多華織”の生産を推奨している。このため、「筑後みどり」のこれまで以上の高品質生産が必要となっている。そこで、高品質イグサの条件である茎が細く、着花茎が少ないイグサの安定生産のための移植苗の1株当たり茎数、3～4月の水管理および先刈り方法、追肥法について明らかにし適正栽培法を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 高品質イグサである120cm以上茎収量は、移植苗の1株当たり茎数が多いほど、先刈り時期が早いほど多い。茎の太さは移植苗の1株当たり茎数が多いほど細い。花序着生率は先刈り時期が早いほど高い。追肥の早晚についての影響は少ない(表1)。
2. 茎の太さは移植苗の1株当たり茎数が多い12～14本移植で細くなる(表1)。さらに3月～4月上旬の母株形成期に地干しを強く(40日間無湛水)すると水分ストレスを強くうけて(データ略)、4月中旬、先刈り前の茎の太さが細くなり収穫時も細い(表2)。
3. 花序着生率は先刈り時期は5月上旬(5/1～5/8)、先刈り部位は従来の45cmより低めの40cmにすると着花部位が切り落とされ、5～6%と少ない。その後の生育にも影響がなく高品質イグサである120cm以上茎の収量も77～84kg/aと多い(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. “博多華織”生産暦に登載し、「筑後みどり」の品質向上を図るための資料として活用できる。
2. 本田移植苗の1株茎数が多くなるので、八月苗をこれまでより20%程度多く育苗する必要がある。

[具体的デ - タ]

表 1 各要因が収量、茎の太さ、花序着生率に及ぼす影響 (平成10~12年)

要 因	水 準	120cm以上茎 収量 (kg/a)	茎の太さ (mm)	花序着生率 (%)
移植苗の 1株当たり 茎数	少	68.6	1.39	12.7
	標準	80.1	1.36	13.3
	多	83.0	1.34	12.2
先刈時期	5/1	83.2	1.37	19.5
	5/8	77.4	1.37	11.9
	5/15	71.0	1.36	6.8
追肥法	早期	77.3	1.38	8.4
	基準	76.6	1.36	8.0
	晚期	77.8	1.37	8.0

注) 移植苗の1株当たり茎数は少3~4本/株、標準7~8本/株、多12~14本/株。
先刈高さ45cm。

表 2 3月~4月上旬の水管理と茎の太さ (平成12年)

水 管 理	処理前 (mm)	処 理 後 (mm)		収穫時 (mm)
	(2/20)	4 /中	先刈前	
標準 (間断灌水)	2.27	2.18	2.29	1.29
地干し強 (40日無湛水)	2.27	2.15	2.14	1.25

注) 移植苗の1株当たり茎数は12~14本/株、先刈は5月1日、高さ40cm。

表 3 先刈時期別花序着生率、収量

先 刈 時 期	先 刈 高 さ (cm)	花序着 生 率 (%)	120cm以上 茎 収 量 (kg/a)
5月1日	45	19.5	83.2
	40	5.7	84.1
5月8日	45	11.9	77.4
	40	4.8	77.2
5月15日	45	6.8	71.0
	40	2.1	70.6

注) 1. 花序着生率の先刈高さ40cmは平成11~12年平均、45cm
先刈は10~12年平均。
2. 収量は平成10~12年平均。

[その他]

研究課題名: 新品種「筑後みどり」の安定栽培法

予算区分: 経 常

研究期間: 平成12年度 (平成10~12年)

研究担当者: 住吉 強、藤富慎一